

令和6年度 袋井高校 第1回学校運営協議会【概要】

日時： 令和6年5月21日(火) 午前10時から12時

場所： 袋井高校 榎緑館

参加者： 委員全員、校長、副校長、教頭、事務長、探究学習担当教諭

主な内容：

- 1, 学校運営協議会委員の任命書授与
- 2, 令和6年度第1回袋井高校学校運営協議会設置の趣旨説明
- 3, 会長及び副会長の選任
- 4, 令和6年度本校の学校経営計画について
 - ・スクールミッション、スクールポリシーを中心に説明。
 - ・起業型探究活動は県西部で2校ほど実施している。学年全体が行うというところに価値がある。
 - ・高校から特定の企業にアプローチすることはない。
 - ・生徒の中から出てくるものを大切にしている。
- 5, 令和6年度の本校の探究活動計画について
 - ・探究学習担当教諭からの説明
 - ・探究活動実施時間の35時間には課外の実践やフィールドワークは含まない。課外でいくら行ってもいい。
 - ・1年生は浅くてもよい。2年生は体系的、論理的に考えていくことを目指した。完成年度である今年の3年生では、「あなたの探究で誰を幸せにできるか」「誰に協力してもらおうか」というパーパスモデルのワークショップを行う。
 - ・外部の人間と触れ合った、聞きに行けたは目的ではなく手段。
 - ・パーパスモデルが先に来るべき。自主FWの実施率40%があまりに低い。生徒たちの心理的安全性は配慮されている一方で、伴走者(先生方)の心理的安全性は研究されているか。
- 6, 質疑及び情報交換
 - ・探究の概要に課題解決とあるが、課題とはいったい何を指しているか。自分自身の課題か、地域の課題か。
 - 理想と現実との間のギャップ、行動に移せるもの。1年生のデザインシンキングでは、他者が対象、地域の課題のこともある。2年生は、自分の理想と現実とのギャップに着目してもよいとしているが、他の人の課題でもあることが往々にしてある。
 - 袋井市の課題に限らず、個人の生きづらさでもいいわけですね。
 - 昨年の成果発表を見ても、地域の課題からしようもないことも含まれていた。
 - 大学で勉強したことが、そのまま職業になるわけではない。異なる形でも、どこに残っていて、細く長く繋がっていく、違う形で接続していくことがキャリアになっていく。宿題という意味で使われる課題とは異なるようだ。
 - 解決しないでよい。それが生き方になるようなもの。
 - その後、どうなったか、どうなっていくかが気になる
 - コロナ前は、見えていた課題に取り組むことばかりでやりやすさがあったが、コロナを経て課題がわからない、あいまいな中で仮説に基づいて解決を考えていくという大切な経験をした。そのようなことに高校生が取り組んでいることに意義がある。
 - 高校3年間で成果や答えが出せるものではないが、その経験が財産となって、引き出しが増えてその先の人生に役に立つのだろう。
 - ・R5年の成果報告の中で教員が回答している「キャリア形成に好影響を与える」とはどういうことか。
 - キャリアは進路選択でなく生き方を指している。
 - ・探究学習が学力の向上につながるとは。
 - 模試の成果が進学実績が上がっている。

→社会や学校教育が変化し、寄り添う生徒指導が言われる中で、自己肯定感が大切である。

→自分の時代は、自己肯定感の押さえつけられる高校生活だった。擦り減らないようにしていた。勉強でもなんでも、自分のやり方を見つけて、やってみて、うまくいくと、自己肯定感が高まる感じがした。

・自己肯定感という言葉は知らなかったが、親や教員からあなたはやればできるよと言われてできる気がしてきた。探究の中で失敗も成功も肯定された中で、生徒は自己肯定感を高めていくのだと思う。

・失敗も含めた成功体験だけで終わらない。進学したところで、テーマを見つけて取り組んでいかなくてはならないことを念頭に、そのプロセスを踏んでいく力に繋がるようにしてほしい。

・探究の目標が、「自己表現をできる生徒を育てたい」ということならば、必ずしも探究でなくてよい。広がりすぎ、錯綜している、さっぱりわからない。

→最初はシンプルな目標だったが、やりたいことが増えてきた。

→「これもできたらおいしい」が方向を見えなくしている。

→前任校では、カチッとしたプレゼンまで作っていくがオリジナリティがない、汗をかいていない。袋井はオリジナリティあることを、汗をかいてやる。くだらないことを大真面目に、ここに価値がある。

→全員参加、いろいろな生徒が取り組むのだから、欲張りに、2列、3列並走してもよいと思う。何かが誰かにヒットする。

・部活動は自己表現の場所として生かされていないか。

→限定的。結果として、この探究が自己有用感や自己表現に繋がっていた。それで欲張りになっていった。

→文化部も含めて、自己表現の場が整ってきている。

・社会貢献のできる人材を作るためにやっていると思っていた。プロセスを経験させることが有用。人と人のつながりを大切にできる人に。

・起業型思考は大学に入ってきたのとはほぼ同時に高校でも始まり、大学がフロントランナーでもない。高校にも頑張してほしい。

・大学では、学生が作った会社もある。その支援は面白かった。マザーズに上場した会社もある。大学に寄付もしてくれた。ここでは、利害に関係ない、理想的なアントレプレナーシップに触れることができ、心が洗われた。

7, 今後の開催日程について